大学連携でんしょばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ　☎FAX506-6628
丹波篠山フィールドステーション　☎FAX506-2366

学生・アクションラーニング

TAMBASASAYAMA FIELDSTATION 丹波篠山フィールドステーション

令和4年度の神戸大学食農コープ教育プログラム始まる

神戸大学農学部では、生産者や生活者の視点から地域の課題を学び、大学での専門教育と結びつけながら、課題解決に向けて実践に取り組める人材の育成を目指す「食農コープ教育プログラム」を進めています。そのうち「実践農学入門」「実践農学」の履修説明会が開催され、多くの学生が参加しました。

古市地区で実施する「実践農学入門」は、農学部だけではなく他学部の学生も説明会に出席し、多様なメンバー構成になりそうです。

「実践農学」では今年度、市内に3つのプロジェクトが用意されています。昨年度「実践農学入門」を受講した学生が、継続して地域に関わったり、自分たちの専門性を活かして新たな活動を企画したりと、より深く、また持続的に活動をしていきます。

活動についてのお問い合わせはこちらまで！　丹波篠山フィールドステーション　清水夏樹(しみずなつき)さん　☎506-2366

黒大豆「“独自”の栽培あれこれ」

黒大豆「丹波黒」を生み出す伝統の技術

丹波篠山で生まれた黒大豆「丹波黒」には独特な技術が数多くあります。その一つは、前号で紹介しました高い畝(うね)です。一般に栽培されている普通大豆や「丹波黒」の次に多く栽培されている黒大豆「いわいくろ」などでは、畝を立てずに平らな圃場(ほじょう)に直接種を播(ま)き、生育途中から土寄せを行い、高さ10～20cm程度の小さな畝にします。

ところが、「丹波黒」では、最初から高さ30cm以上の畝を立て、さらに土寄せを行うので、畝の高さは40cmにもなります（高畝栽培）。また、発芽をよくするため苗は苗床(なえどこ)でつくり、植え付けます（移植栽培）。生育が旺盛なため、畝と畝の間隔は、普通大豆の60cmに対して「丹波黒」は160cmとし、株と株の間隔も広くします（疎植栽培）。そして、7月下旬には支柱を立てて倒れないようにします（支柱立て栽培）。

これらの栽培方法は、黒大豆「丹波黒」を排水の悪い水田で安定的に生産するために、先人が長い年月をかけて培ってきた伝統の技術なのです。

長年、独自に培われてきた技術で育てられる「丹波黒」

vol.14

日本農業遺産認定

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

ご意見募集中です

送付方法
1)電話・FAX
☎　552-1114
FAX　552-2090
2)メール
norin_div@city.sasayama.hyogo.jp
3)ホームページ
下記の二次元コードを読み取ってください